

就職し、社会で役立つ 人材育成を目指して

チーム名：ビーサン

1

就職し、社会で役立つ人材育成を目指して

就職留年が問題となっている

どのようにしたら事態を打開できるか、
また業務上どのような問題があるかを検
討した

2

討議内容

- 就職意欲を高める。
- 社会人基礎力を高める。
- 自主性を高める。

各部署間で保有している情報の共有化や活用が行われていないという問題

以上の問題を解決するために

情報の一元化 が必要

情報の一元化を進めるために必要なこと

- ①各部署で保有する学生情報を一元化し、活用する
- ②シラバス上の就職関連授業の分類化
- ③授業アンケート等の科目ごとのフィードバック（学生との情報のやりとり）

①各部署で保有している学生情報を一元化し、活用する

学生の履修状況や出席状況、就職希望状況、また各大学で設けている教員の学生指導状況（面談情報）を一元化することにより、情報を活用できる

②シラバスにおける就職に関連する授業の分類化

プレゼンテーション及びグループワーク等の参加型の授業、学外に出て社会を体感できるような授業、企業人を招いてのオムニバス形式の授業などに分類化する。

③授業アンケート等の科目ごとのフィードバック（学生との情報のやりとり）

アンケートをふまえた改善点の報告

評価

定期的なチェック・改善

- ・ 就職状況
- ・ 満足度調査
- ・ 部署間の連絡会

情報一元化による注意点

- ・ 取り扱いルールの策定
- ・ 責任所在の明確化

まとめ

- 情報の一元化と活用ができていないのは、その目的の設定と共有が希薄である
- 「就職し、社会に役立つ人材育成」という目標達成のため、個別具体的な情報管理の問題を検討した



情報の一元化によって就職率のアップにつながる

おわり

ご清聴ありがとうございました